

であいの里広報

令和5年6月15日(2023年) No.158
 出合校区協議会(であいの里) 兵庫県養父市出合 249
 Tel 079-667-8020・Fax079-667-8022
<http://www.deaikyo.com/>(ホームページ)
 facebook 出合校区協議会検索

5月14日(日)「吊りかざり作り講習会」市内から13人参加 かわいい“かぶと”が出来上がり みんな満足!

大雨や台風が心配なシーズンがやってまいりました。すでに、先日の台風2号の影響で当地でも6月2日早朝から大雨警報が発表されました。各地で線状降水帯などによる事故や被害が発生しており、関係地域の皆さまにお見舞い申し上げます。また、関宮学園9年生の修学旅行も東京で、もう1泊という予定変更もあったようですが無事に帰着できホッと一安心しました。

5月のこいのぼりまつりの期間中に開催しました「吊りかざり作り講習会」には市内から13人が参加し“独楽”と“かぶと”を作りました。これは、ひなまつりやこいのぼりまつりの来場者から展示している吊りかざりを見て「こんなの教えてほしいわ!」という声に応じて開催することにしました。細かな手作業でしたが3時間ほどかけて可愛い、かわいいかぶとと独楽が出来上がりました。交流の場となり、皆さん「楽しかった。」「また機会を作って!」と満足の様子でした。



お帰りの前には、お土産用にあんもち、かしわ餅、赤飯、はちぶせ漬、焼きかきもちなどたくさんお買上いただきました。ありがとうございました。



こんなに上手にできてうれしい!! 玄関に飾るわ!!
 楽しい一日でした。



裏面もご覧ください

5月1日(月)~19日(金)19日間開催 来場者490人 “であいの里こいのぼりまつり”

昨年が続いて、おこさま連れの家族や帰省客など多くのおみなさまにご覧いただけるよう5月の大型連休中を含めて開催しました。

5月18日は、関宮こども園一行が園長先生たちと共に、57人で見学に来られました。手づくりの鯉や土人形などをじっくりと見て「土で出来てるの?」と感心したり、広い体育館を駆け回ったり、こいのぼりをバックに組ごとに写真をとったり、久々に子どもたちの元気な声が響き渡るひとときでした。その後、小路頃出合農村公園に歩いてお出かけ、さわやかな風をうけて泳ぐこいのぼりの下でかけっこなどをして楽しんでいました。

出合有志の皆さま期間延長していただきありがとうございました。

体力測定会計画中

7月23日(日) 予定
 であいコスモ体育館
 養父市/出合校区協 共催
 詳細は後日お知らせ



関宮学園トピックス

修学旅行(6年・9年) 自然学校(5年) トライやるウィーク(8年) わくわくオーケストラ(7年) 5月末から6月始めにかけて、大きな行事が続きました。それぞれの行事の様子は、ホームページにアップしています。
 草刈りボランティア、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



関宮学園 HP
<http://yabuboard.ed.jp/sekinomiyagakuen/>



主な事業計画等

6月20日(火)県道改期同総会
 6月23日(金)19:30 出合校区協議会・スポーツ21であい総会
 6月27日(火)19:30 幼パティン
 6月28日(水)13:00 出合いカフェ
 7月5日(水)19:30 環境安全部会

主な活動経過等

5月17日(水) 文化部会・健康福祉部会・環境安全部会
 5月18日(木)関宮こども園見学会
 5月1日(月)~19日(金) こいのぼりまつり 490人
 5月20日(土)~6月3日(土)片付
 5月20日(土)加工部会
 5月22日(月)Mバー 移動販売の件打合
 5月24日(水) 文化部会、環境安全部会
 5月24日(水)出合いカフェ
 5月25日(木)であいの里移転先外板色 市・業者打合立会
 5月26日(金)やぶくる総会 米田会長出席 八鹿Y7アグ
 5月29日(月)遠隔/機械作業 市/日立
 5月30日(火) 自治振興部会
 5月31日(水)せきのみやふれあいまつり実行委員会 前田出席
 6月2日(金)出合協・S21であい監査
 6月3日(土)加工部会打合会
 6月7日(水)県道改期同役員会
 6月14日(水)運営委員会

残しておきたい懐かしい思い出など (パート5)

村の行事 安井

書いた人は不明ですが平成15年ごろの記録です。(この頃から現在に至っては変化しています。)松竹京都映画(株)も撮影に来られたようです。

大草履づくり・どんど・狐狩り

正月6日に行われる安井の「大草履」づくりは足中草履といわれ、はくと足の中ほどまでしかない草履のことで、正月の歳神(農業の神様)は片足だといわれて、片足だけつくることになりました。(幅1m50cm 長さ1m50cmという超巨人用の大草履をつくります。)当日の午前中は、村中で草履づくりをして、夕方には「どんど(年越しほだの火をたやさないようにして、この火をわらづとと豆殻に包んでどんどの火種にします。)、夜には狐狩りをします。狐狩りは、太鼓をたたきながら「ありゃ何そうろうよ、狐狩りそらよ いつまで狩るや、とかつのだよまで狐狩りそらよ」と囃しながら大草履を出合との村境まで運んで飾ります。「大草履」「どんど」「狐狩り」の三つの行事が組み合わさって、当日昼夜かけて行われる厄除け祈願(悪いことを追い払うこと)をします。

特に安井は、どんど場が決められています、そこで吉書上げや今年の運勢を占い、家族の無病息災(病気になったり、悪いことがあったりしないこと)を願って、夜遅く「狐狩り候」を囃し立てながら村はずれの歳の神にゆかりの木の木に大草履を飾って、歳の神に守ってもらいます。大草履づくりは6日の朝早く村の男はきれいな打ち藁を少しずつ持って、村内の竹下鶴雄さん宅に集まります。集まる理由は、はっきりとはしませんが昔から毎年竹下さんの家で大草履を作っていたと言われています。それは、江戸時代から竹下さんの家には若い人がたくさん集まり若者の宿のようであったといわれているからです。そこで、若い人へ「草履づくり」を教えるために竹下さんの家で長年草履づくりをするようになり、それが今まで続いているのではないかとされているそうです。

竹下さん宅は、玄関から入った横の八畳の間が解放されて、各家から持ち寄った藁がいっぱい持ち込まれ、草履づくりが始まります。大草履を作る人が6~7人、残りの人は小さい草履を片足ずつ作ります。大草履は力と要領のいる仕事で、芯の縄を引っ張っている者、編んでいく者、みんな力いっぱいの仕事です。

大草履は、大男がいるように見せかけて、悪霊(悪い者)や疫病(恐ろしい病気)を払うために作られています。小さい草履はそれぞれの参加者の家族の無病息災を祈願するために作られるものです。草履は午前中に出来上がり、村の氏神である山の神さんまで運んで、あとはお神酒をついで乾杯します。

午後は、一のくらの頃(だいたい五時頃か、少し暮れかかった頃)に「どんど」の準備をします。それぞれの家に飾ってあった正月の「がや松、しめ縄、門松など」を全部一カ所に持ち寄って来るので、山のように積み上げられます。安井地区では、「どんど」場として決められた場所があるので、他の場所に持って行くようなことはありません。そして、一のくらみを待つ火は昔から神聖で清らかな物と考えられていましたが、この村では前年の暮れから守り続けた火種を持って点火します。一つの火(永遠に守るといふ火継ぎの信仰)を大切に守っています。

この火継ぎをして、点火する家は昔から決まった家がします。(西暦1781年~1789年におきた天明の大飢饉(天明

という時代のある年に、とても天候が悪く、米や野菜がほとんど取れない年があり、たくさんの方が死んでしまったことがありました。)時のに、家の財産を寄付して困った人々を救った家とその役目をしたそうです。

ある年、他の者が火をつけたところ、その人の家が火元となって、ほとんどの家が焼けてしまうという大火事があり、その後このきまりはかたく守られているそうです。)現在は栃下高次さんの家が行っています。その家は、昔から暮れにカンヤを使って火をおこし、それを当日まで消さずに守っているそうです。今は炭も十分ない時代ですので、練炭などを使うより仕方がないようです。村の人はみんな出てきて吉書上げ、餅を焼き、燃えさしを家に持って帰って、お灸の火種にしたり、灰を持ち帰って家のまわりにまき、害虫を防ぐなどして、今年の家内安全や五穀豊穰(米や野菜などがたくさん取れますように)をお願いしました。

夜遅になると、御幣(お札)をつけた大草履、小草履を青竹の先につけてかつぎ、子供も大人も村中が参加して狐狩りをはやしながら練り歩き、出合との境に大草履を祀って帰ります。いわゆる、大草履づくり、どんどさん、狐狩りと三つのことが一緒になった行事です。

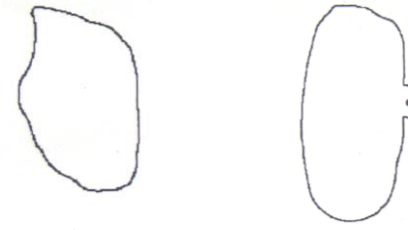


ひとびとの幸せを願い

神様が履いて帰られる
大草履づくり

平成2年2月発行 議会広報
せきのみや 掲載の写真より

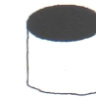
カンヤ (火をおこす道具のこと)



① 火打ち石
かたい石で出来ている。

② はがねの板

③ 黒いすすのようなものを直径3cmぐらいの缶に入れていつも置いておく。



使い方...火打ち石と はがねの板を勢いよく打ち付け、出た火花ですすに火をつけ、それをつけ木に移し、そのついた火をもっと大きいものに移し替えて火をおこしていた。

♪ 狐狩りのうた(囃し) ♪

我なにするがよ〜

狐狩りするがよ〜

いつまでするがよ〜

六月の土用まで狐狩りするがよ〜

(どちらが正しいのか、左記の文言と違います。)

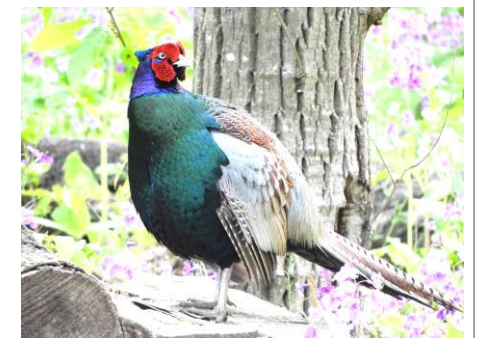


鳥ぼい

昔は、正月休み はらべらかし 1月8日ごろになると村中総出で鳥ぼいをしたものです。まず、出合から安井にかけて川をはさんで南北に分かれて、山に登り、配役を決めて、遠見と言って 鳥が出てきたら、「東よ〜 西よ〜」と叫んで鳥が行く方を向山の人に知らせるのです。

やま鳥でも、きじでも飛ぶ間は息をせず飛ぶため、息苦しくなって雪の中に顔を突っ込むのです。それを遠見が見ていて向かいの山の人に知らせるのです。今度は北のこちらの山に鳥が来たら、南の山にいる遠見の人が大声で知らせてくれます。

一度 鳥ぼいをする、山鳥かきじを三羽ぐらいとりました。夕方になるときじめしを炊いて宴会が始まります。昔はテレビもラジオもなかったので安井の人は鳥ぼいをして遊びました。今では、木が大きくなっているため鳥ぼいはできませんが、昔は草刈り場で草原だったから鳥ぼいのできたのです。



出来上がった大草履は まず神社に奉納します。
昭和58年2月発行 広報せきのみや 掲載の写真より

門松

入り口左右の杭に、かやの枝先が上下になるよう2本の根元を交差させて2カ所で固定します。芯の立った13本ほどのかやで形を整え、3本のみさいぎ(支柱)で支えます。しめ縄は中心のかやの木にはり、間にゆずり葉、かやの小枝、御幣(お札)をつけます。